

はじめに

第1章では、法学類新入生の皆さんが大学での勉強をスタートするにあたって感じるであろう疑問に答えながら、大学生活への橋わたしをします。全体は大きく、3つのパートに分かれます。

第1のパート（1から4までの部分）：大学で授業を履修する際に基本となる「単位」というものが、どのような意味を持つかを中心に、履修計画（時間割作り）のための前提知識を説明します。



第2のパート（5の部分）：たくさんある授業科目を分類し、それぞれがどのような趣旨で開講されているのかを説明します。



第3のパート（6と7の部分）：時間割を作り、確定させる手続（履修登録）の流れを説明します。

なお、授業科目の履修についてのルールは毎年変更されていますので、履修に関しては先輩の経験談と違っていることがあります。皆さんは、まずはこれからの説明をよく読んでください。それでも分からないことがあるときは、1人で判断せず、「7. 履修についての相談窓口」に掲載している窓口¹⁾で遠慮なく質問してください。

***赤字は4月11日現在で加筆した情報。**

***青字は4月13日現在で加筆した情報。**

1. 大学生の時間割はみんなちがう！？

高校では、何曜日の何時限目に何の授業があるという時間割がクラスごとに決まっています。選択科目の時間以外は、みんなで同じ授業を受けてきたはずで、時間割は学校が決めるもので、生徒²⁾はそれに従って授業を受けるのが当然のことであったと思います。大学の時間割も、何曜日の何時限目に何の授業があるという書き方になっているのは高校の時間割と同じです。

ところが、大学の時間割表を見るとすぐに気が付くと思いますが、同じ時間帯にいろいろな授業があります。このような場合、同じ時間帯に複数の授業を同時に聴けるわけがありませんから、皆さんは、自分で必要と考える授業を選択して、何々の授業を選択します、

¹⁾ 事務担当窓口は、特に記載のあるものを除き、すべて人間社会系事務部学生課の各係です。

²⁾ 大学では皆さんのことを「生徒」ではなく、「学生」と呼びます（六法を手に入れたら学校教育法という法律を眺めてみてください）。

という意味を大学に表明しなければならない、ということになります。つまり、大学が学生に渡す時間割表は、「大学は何曜日の何時限目に何の授業を学生に提供するか」のメニュー表でしかなくて、学生は自分の時間割を自分で作らなければならないのです！

そんなこと言われても、授業の数もすごく多いのに、何をどう選べばいいのか分からない、という人もいます。でも、大学生なら誰でも一度は戸惑うことなので、心配はいりません。これからの説明をよく読めば、誰でも自分だけの時間割が作れます。

2. 大学は「単位制」

高校に進学したときのことを思い出してください。義務教育でないから、成績が悪いと留年することもありますよ、などと先生に脅された記憶はないでしょうか。まあ高校の場合、実際に留年する人はごく例外だと思いますが、いろいろな事情で留年ということになると、友達みんな上の学年に進めるのに、同じ学年をもう1回やり直すことになります（「原級留置」といいます）。大学も当然、義務教育ではありませんから、留年があります。

ただ、同じ留年といっても、大学の場合は、同じ学年をもう1回やり直すというものではありません。友達といっしょに上の学年に進むことはできます。でも、友達といっしょに卒業することができません。これが大学の場合における留年の意味です³⁾。それではいったいどうしてこんな違いが出てくるのでしょうか？その答えは、大学が**単位制**をとっているからなのですが、この単位制、あるいは単位ということばがこれからしょっちゅう出てきますので、しっかりと頭にたたき込んでください。

単位制とは？

- ① ある授業科目を履修し、担当の先生による成績評価を受け、合格すれば所定の「単位」がもらえます。
- ② 4年間（プラス α ）かけて、所定の「単位」を積み上げて行き、卒業に必要なだけの「単位」をそろえると卒業することができます。

留年の意味が高校と違っているのは、②を見れば分かります。つまり大学における留年とは、卒業に必要なだけの「単位」を4年間でそろえることができなかつたために、卒業することができないこと、を指します。

³⁾ もっとも、金沢大学でも、法科大学院では、成績が悪いと進級ができないという「原級留置」が実施されています。しかも、原級留置が2年連続すると、退学勧告を受けます。皆さんの中に、法科大学院への進学を考えている人がいると思いますが、気合を入れて行かないとひどい目に遭いますぞ！

さあ、そうすると次に、卒業に必要なだけの「単位」って何とか、どうすれば所定の「単位」がもらえるのかの疑問がわいてきませんか？どの授業を選ぶかを決める前に、この疑問を解決するのはとても重要なことなので、次にこの話に進みましょう。

3. そもそも「単位」って何でしょうか？

「単位」などときくと、メートルとかキログラムとか、理科の実験か何かをイメージするかもしれませんが、もちろんここでは理科の実験とは無関係です。でも、理科の実験で使う「単位」が、物の何らかの性質、例えば長さとか重さを数字で表わす場合の基準であるように、大学でいう「単位」にも、学生の学習量を数字で表わす場合の基準という意味があります。そして学生の学習量を数字で表わすのに、長さのメートルや重さのキログラムのような特別な言い方がないので、「単位」という名前の単位を使っています。

ところで、メートルにしてもキログラムにしても、基準になる量（何が1メートルか、何が1キログラムか）が決まっているそうですが、大学でいう「単位」も、何が1単位かが決まっています。ちょっと法学類らしく、条文を挙げてみましょうか。

金沢大学学則第50条

- 1 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。
 - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。（但書き、第3号は省略）
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

→金沢大学学則の全文は、『学生便覧』に掲載されています。

つまり、

「1単位＝45時間の学修を必要とする内容」

ということが分かります。

でも注意深い人は、15時間から30時間の授業をもって1単位とするとか、30時間から45時間の授業をもって1単位とするとか、書いてあるのに気づいたはずですが。45時間よりも少ないのはどうしてでしょうか？その答えは、45時間の中には、15時間なり30時間

なりの授業に加えて、学生が自習する時間が含まれている、ということになります。授業に出てきさえすればOKということではありませんよ。それじゃあ逆に、授業には出た、自習もした、これで単位がもらえるのでしょうか？残念ながら、そうはいきません。さっきの「単位制とは？」の①をもう1回読んでみてください。そうです。担当の先生による成績評価に合格する必要があります。

それぞれの授業科目には当然、その履修を通じて何を身につけることを目指しているのか、という目標があります。授業を担当する先生は、学生がこの目標に到達したと認められるときに、「単位」を出すことになります。学生としては、授業科目の目標となっているものを身につけたことを、授業を担当する先生に向けて証明しなければならないのです⁴⁾。

金沢大学学則第52条

授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。（但書省略）

4. 卒業に必要な「単位」とは？——卒業要件のはなし

大学は4年間（プラス α ）在学したことに加えて、卒業に必要な「単位」をそろえると卒業することができます。卒業に必要な「単位」については、人間社会学域規程⁵⁾を受けた法学類細則の別表第1に、定められています。

法学類細則第4条

第1項 学域規程別表第2に定める卒業に必要な単位数の細目は、本細則別表第1の定めるところによる。

→人間社会学域規程の関連部分及び法学類細則の全文は、第4章 資料編に載っています。

⁴⁾ この証明が難しいか簡単か、つまり「単位」が出にくい出やすいかは、科目によって、あるいは先生によって開きがあるようで、今も昔も学生にとってはいちばん興味のあることです。皆さんのまわりの先輩に聞けば、「○○先生の△△語は楽勝」だとか、「鬼の○○法、仏の××法」だとか、いろいろと教えてくれることでしょう。ただ、例えば「仏の××法」の授業は「単位」の実質に見合うだけの中身がなく、出席するだけ時間のムダだったとか、「鬼の○○法」は勉強するのがしんどいけれども、実はすごく内容の濃いものだったということもありえます。

⁵⁾ 法令の世界に、憲法を頂点として、法律→政令・省令という段階があるように、大学の中のルールにも、学則を頂点にして、規程→細則・申し合わせ等という段階があります。皆さんにとって関係の深い、授業科目の履修あるいは成績の評価（単位認定）については、学則の下に、金沢大学履修規程、共通教育科目に関する規程という全学共通のルールがあり、これを受けて各学域規程が置かれ、法学類のルールはその下に置かれています。

別表第1 卒業に必要な単位数の細目（第4条第1項関係）

| 区 分 | | 修得すべき単位数及び条件 | |
|-----------|------------|--------------|---|
| 共通教育科目 | 導入科目 | 38 単位 以上 | 大学・社会生活論，初学者ゼミ I，データサイエンス基礎，地域概論の各 1 単位，合計 4 単位 |
| | GS 科目 | | プレゼン・ディベート論（初学者ゼミ II）1 単位を含め，合計 15 単位 |
| | GS 言語科目 | | 8 単位 |
| | 初習言語科目 | | 同一言語で 8 単位 |
| | 自由履修科目 | | 導入科目及び GS 言語科目を除くすべての共通教育科目のうちから 3 単位以上 |
| 専門教育科目 | 学域 GS 科目 | 90 単位 以上 | 学域規程別表第 3-1 に定める授業科目から 2 単位 |
| | 学域 GS 言語科目 | | 学域規程別表第 3-2 に定める授業科目から 2 単位 |
| | 専門基礎科目 | | 専門基礎科目 4 単位以上を含め 86 単位以上 |
| | 専門科目 | | |
| 卒業に必要な単位数 | | 128 単位以上 | |

注：GS 科目及び GS 言語科目の開講科目及び履修条件は，共通教育科目規程の定めるところによる。

何だか少しややこしくなってきましたが，まずは次のことをおさえてください。

| |
|--|
| <p><卒業要件のポイント></p> <p>① 法学類の学生は 4 年間（プラス α）かけて，128 単位以上の単位をとれば卒業することができます（表の一番下）。</p> <p>② 128 単位の中身は，いくつかの科目区分に細分されていて（表の左半分），それぞれの区分からどれだけの単位をとらなければならないかが，決まっています（表の右半分）。この決まりに反すると，いくら合計で 128 単位以上の単位をとっていても卒業することができません。</p> |
|--|

5. 授業科目あれこれ

時間割表にたくさん載っている授業科目は，原則としてさっきの別表第1のどれかのカテゴリーに入ります⁶⁾。具体的な授業科目がどのカテゴリーに入るかは，シラバスあるいは

⁶⁾ ただし，教員免許（正式には，教育職員免許状といいます）をとることを考えている人は，別表第1に書いてある授業科目とは別に，教員免許取得に関する科目を履修する必要があります。教員免許の取得について詳しいことは、『教育職員免許状ハンドブック（教職ハンドブック）』を参照してください。

時間割表を見て、確認して行く必要があります。ここでは、それぞれのカテゴリーの授業科目の趣旨と、卒業要件のポイント②の具体的な中身を見て行きましょう。

（1）共通教育科目・専門科目（大分類）

法学類の授業科目のいちばん大きな分類は、**共通教育科目**（俗に一般教養などとよばれるものと同じ）と**専門教育科目**です。これに対応して、時間割表も、共通教育科目用のものと専門教育科目用のものの2種類があり、両方とも使用します。

このように言うと、法学を専門に勉強するつもりで法学類に入ったのに、どうしてそれ以外の科目も勉強しなければならないんだろう、と感じる人がいると思います。とくに、1年生の間は、専門教育科目が開講されるとは言ってもほんの少しで、それよりも共通教育科目をたくさん履修しなければならないので、この疑問にはたびたびぶつかると思います。実は、大学生をやったことのある人なら1度は感じる疑問らしいですが、例えばこんなふうに考えたらどうでしょうか？

受験勉強に象徴されるように、高校までの勉強はどちらかと言えば、与えられた課題を着実にこなすという、受け身の勉強が多かったと思います。これに対して、大学は皆さんに主体的に勉強することを要求します。もっとも、主体的に勉強しろと言われても、具体的にどうすればいいんだろう、という人が多いと思います。そこで、高校までの勉強から大学での勉強に頭を切りかえる、という意味があります（**勉強のスタンスの転換**）。

皆さんは社会に出たら、現実の世界に起こっているいろいろな現象を眺めて、その中からみずから問題を発見し、その問題を様々な視点から分析して、解決案を提示することができなければなりません。そして法学類の専門教育科目は、法学あるいは政治学という特定の視点に特化してこのような力を身につけることがコアとなっています。もっとも、現実の世界に起こっている現象には、ある特定の視点からだけでは、必ずしも十分な分析ができないものも数多くあります。同じ現象でも、視点を変えれば全く別な発想が出てくるかもしれませんし、その中からよりよい解決策が見つかるかもしれません。そこで、法学あるいは政治学という皆さんがこれから専攻する分野以外の専門家が、どのような物の考え方をしているのかに触れるという意味があります（**多様な視点の獲得**）。

共通教育科目はその名のとおり、専門分野を問わず金沢大学の全学生に共通して開講されますから、そこには、金沢大学で学んだ学生がどのような素養を身につけて社会に出て行くことになるかが、示されています。現在のところそれは、次の金沢大学＜グローバル＞スタンダード（略称：KUGS）と言われるものに、示されています。

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) ⁷⁾

- | | |
|------------------|----------------|
| (1) 自己の立ち位置を知る | (4) 世界とつながる |
| (2) 自己を知り、自己を鍛える | (5) 未来の課題に取り組む |
| (3) 考え・価値観を表現する | |

いずれにせよ共通教育科目は、それを勉強したからといって、すぐに何かの役に立つとは限りません。また、科目によっては、皆さんがあまり興味・関心を持っていないものもあるかもしれません。でもそれは、皆さんが専門の勉強を深めてゆく中で、あるいは社会に出るから現実の課題に直面したときに、自分の視点とはやや異なる視点から物を考えることを可能にし、あるいは異分野の専門を持つ人と対話し、その助けを借りるための手がかりになるでしょうから、食わず嫌いで終わらずに、チャレンジしてください⁸⁾。

(2) 共通教育科目あれこれ

さあそれでは、共通教育科目に分類されている授業科目のそれぞれについて見て行きましょう。別表第1をもう1度見ると、共通教育科目はさらに、**導入科目**、**GS科目**、**GS言語科目**、**初習言語科目**、**自由履修科目**という、5つのカテゴリーに細分されています。そして、修得すべき単位数及び条件のところは、これらすべてを合わせて38単位以上と書いてあり、この38単位の中身については、表のいちばん右側に出てきます。ここもやはり、表に定められた決まりに反して、数だけそろえたのではダメです。この先をよく読んで、まちがいのないように注意してください。

① 導入科目

導入科目に属する授業科目（いずれも1単位・必修）

大学・社会生活論，初学者ゼミ I，データサイエンス基礎，地域概論

別表第1で、「修得すべき単位数及び条件」というところを書いてあった授業科目について、ここでは「必修」と書いてあります。これは、**その授業科目の単位を必ず取らなければならず、取らないかぎり卒業することができないこと**、を意味します。ですから、皆さんが自分の時間割を作るにあたっては、「必修」とされている授業科目は、全ての授業科目

⁷⁾ 現段階では、「世界標準」を定めて全世界にそれを強制できる「世界政府」はなく、金沢大学がそれを定める立場にもありませんから、これは金沢大学発の「世界標準」候補の一提案ということになります。

⁸⁾ 予備校や専門学校は、目の前の試験に必要な知識、あるいは専門的なテクニックを教え込むことが目的ですから、このような一見すると「ムダ」なことは、絶対にやりません。皆さんのまわりの先輩を見ると、大学受験の延長のノリで各種の資格試験や公務員試験のための勉強に力を入れて、大学生としての勉強をまじめにやらない人もいますが、いまだき単に「大卒」の肩書をもっているだけではほとんど有難みがないことに、どれだけ気が付いているのでしょうか。重要なのはむしろ、ほんとうに「大卒」と言えるだけの中身をともなっていることですから、皆さんは大学でしか身につけられないことは何かを考え、それを身につける努力をすることが大切です。

に優先して時間割に書き込まなければなりません。必修の反対語は「**選択**」です。選択とは、**その授業科目を履修するかどうかは学生の自由であり、履修しなくても卒業には影響しないこと**、を意味します。

それぞれの授業科目で具体的にどのようなことを勉強するかについては、「シラバス」に書いてありますが、少しだけ補足してみましょう。

(1) 大学・社会生活論 ~~（履修ガイダンス後に学類から配布した資料参照）~~

大学・社会生活論は、大学での勉強や社会生活のために必要な基本事項を学ぶことを目的とします。**（詳細：アカンサスポータル上のLMS参照）**法学類では、~~共通教育科目の履修ガイダンスに引き続いて、法学類オリエンテーションとして、主に大学生活をスムーズに始めるための基礎知識に関する部分を集中的に説明し、残りは授業開始後に開講します。~~

(2) 初学者ゼミ I **（Q3に開講延期）**

初学者ゼミ Iは、ひと言でいえば、高校までの勉強から大学での勉強への橋わたしの場、大学生の「主体的勉強」がどのようなものを体感的に理解する場、ということになります。そもそも皆さんは、高校まではゼミ（演習）という形式の授業にあまりなじみがないこともありますので、もう少しイメージを膨らませた方がいいかもしれません。

法学に限らず、大学の文系の授業というと、大講義室で先生がマイクを使って数百人の学生を相手に講義をするという場面を想像すると思います。しかし、じつは単に講義で知識を身につけたというだけでは大学生の勉強としては十分ではなくて、身につけた知識を具体的な問題に応用して使いこなせるように、さらに勉強を深めることにこそ、ほんらいの意味があります。ゼミ（演習）は、このような勉強の場になっています。つまり、ゼミでは、学生が調べてきたことを報告する、それをもとにして学生どうし、あるいは学生と先生が議論をする、というのが基本的なスタイルになります。ゼミの主役はあくまで学生で、先生はむしろ脇役に回ります。

もともと、現状では皆さんは、専門の講義も聞いていなければ、ゼミ（演習）形式の授業にもなじんでいないわけで、このような本来の姿のゼミをいきなりやるのはムリでしょう。そこで、まずは大学生の主体的勉強の意味を早い段階から理解してもらうべく、入学してすぐのこの時期からゼミ（演習）形式の授業が設定されたのです。したがって、このゼミを履修する上で、法学あるいは政治学の専門的知識は必要ありませんし、このゼミで法学あるいは政治学それ自体の入門的なことをやるわけでもありません。あくまで、大学生の主体的な勉強というのがいかなるものか、そのような勉強のためにどのようなツール

があるのか、といったことを理解するためのゼミであると考えてください⁹⁾。

なお、初学者ゼミ I に続いて、あとで説明する GS 科目のひとつとして「**プレゼン・ディベート論（初学者ゼミ II）**」が開講され、こちらも**必修**となっています。法学類では、初学者ゼミ I の担当の先生が引き続き担当します。**（Q4 に開講延期）**

(3) データサイエンス基礎 **（履修ガイダンス時の配布資料参照）**

データサイエンス基礎は、学内ネットワークの適切な利用法、セキュリティ、コンプライアンス・モラルおよび基礎的な情報リテラシーを学ぶとともに、データサイエンスに関する基本的知識を習得するものです。なお、この授業科目を履修するさいには、ノートパソコンを使うこととなります。大学推奨の機能をもつものを、準備しておいて下さい。

(4) 地域概論 **（Q2 に開講延期）**

地域概論は、法学類の専門分野である法学・政治学を社会とのつながり、地域への貢献という視点から理解し、皆さんが自分の将来の目標を明確化して、働く自分の姿を見据えて、大学での有意義な学修計画を主体的に立てることを学ぶものです。グローバル化がどれほど進んでも、人々は日常、自分の身近な地域に生活の拠点を持っていますから、皆さんが自分の専門を生かして人々の「幸せ」を増やそうとするならば、多かれ少なかれ、地域に根差した物の見方を身につけることが必要となります。この授業科目は、その第一歩を提供するものです。

② GS 科目

GS 科目は、共通教育科目のコアとして、前に紹介した KUGS の (1) から (5) に対応する 5 群に分類され、次のページの表に掲げる、原則として 1 単位の授業科目が合計 32 種類用意されています¹⁰⁾。その開講科目と履修条件は次の表のとおりで、皆さんが卒業するには、この表の条件に従って、**総数で最低 15 単位修得することが必要**です¹¹⁾。

⁹⁾ もちろん、担当する先生の専門分野によって使用する教材が違っていることは当然あります。でもそれはあくまで、手段・方法のちがいであって、このゼミの目的は本文で述べたことで統一されています。なお、このゼミは、だいたい先生 1 人につき学生 18 人程度でクラス分けをし、学類オリエンテーションの際にクラスを発表します。高校のクラスよりも小さいでしょうから、友達を作りやすいと思います。また、担当の先生は、皆さんの「アドバイス教員」(☞ 7.) として、ちょうど高校のクラス担任の先生のように皆さんの相談に乗ってくれます。

¹⁰⁾ もっとも、KUGS の (1) ～ (5) はどれも、この授業科目の単位さえ取れば、お手軽に身につくような「ヤワ」なものではありません。むしろ、他の授業科目や授業外、さらには大学外での色々な活動・経験とも一体化してこそ身につくもの、否それどころか、卒業後も生涯にわたって鍛えるべき素養ばかりです。その意味で、GS 科目の単位をそろえるのは最低限のこと、ほかにもやることはたくさんある、と考えた方がよいでしょう。

¹¹⁾ 皆さんは GS 科目の単位を取得したら、科目名の左の分類番号のところを、マーカーで塗りつぶして行くことで、GS 科目の単位修得要件をクリアしたかどうかをひと目で確認することができます。

GS 科目の開講科目及び履修条件

| 群 | 科目名 | | 類 | 履修条件・留意点 |
|---|-----|---------------------------|--|---|
| 1 | 1A | 現代世界への歴史学的アプローチ | I | <ul style="list-style-type: none"> ・ I類から1単位, II類から1単位を含めて, 3単位以上を修得。 ・ 1Fは, 「物理の世界」, 「化学の世界」のいずれか一方を修得すれば1単位を認定。両方修得した場合, 1単位分は, 自由履修科目の単位に充当。 |
| | 1B | グローバル時代の政治経済学 | | |
| | 1C | グローバル時代の社会学 | | |
| | 1D | ケーススタディによる応用倫理学 | | |
| | 1E | 地球生物圏と人間 | II | |
| | 1F | 物理の世界／化学の世界 | | |
| 2 | 2A | 哲学（自我論） | I | <ul style="list-style-type: none"> ・ I類から1単位, II類から1単位を含めて, 3単位以上を修得。 ・ 2Fは, 原則として0.5単位(学期単位で開講される1単位のものが少数あり)。合計2単位まで修得可能。ただし, 1単位を超える分は, 自由履修科目の単位に充当。 |
| | 2B | パーソナリティ心理学 | | |
| | 2C | グローバル時代の文学 | | |
| | 2D | 健康科学 | II | |
| | 2E | 細胞・分子生物学 | | |
| | 2F | エクササイズ&スポーツ 実技 | | |
| 3 | 3A | プレゼン・ディベート論 (初学者ゼミ II) | <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼン・ディベート論(初学者ゼミ II)を含めて, 3単位以上を修得。 ・ 3Dは, 「論理学から見る世界」, 「数学的発想法」のいずれか一方を修得すれば1単位を認定。両方修得した場合, 1単位分は自由履修科目に充当。 ・ 3Fは, 合計2単位まで修得可能。ただし, 1単位を超える分は, 自由履修科目の単位に充当。 | |
| | 3B | クリティカル・シンキング | | |
| | 3C | 価値と情動の認知科学 | | |
| | 3D | 論理学から見る世界／数学的発想法 | | |
| | 3E | 芸術と自己表現 | | |
| | 3F | スポーツ科学 | | |
| 4 | 4A | 金沢・能登と世界の地域文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3単位以上を自由に選択して修得。 ・ 4Dには, 1～8単位の単位数の科目があり, 1単位を超える分は自由履修科目の単位に充当。 | |
| | 4B | 日本史・日本文化 | | |
| | 4C | 異文化間コミュニケーション | | |
| | 4D | 異文化体験 | | |
| | 4E | 国際社会とボランティア | | |
| | 4F | グローバル社会と地域の課題 | | |
| 5 | 5A | 科学技術と科学方法論 | I | <ul style="list-style-type: none"> ・ I類から1単位, II類から1単位を含めて, 3単位以上を修得。 |
| | 5B | 統計学から未来を見る | | |
| | 5C | 情報の科学 | | |
| | 5D | 環境学とESD | II | |
| | 5E | 生活と社会保障 | | |
| | 5F | 人権・ジェンダー論 | | |

GS 科目は, 体育や芸術関係等の一部の科目を除いて, 同じ内容のシラバス・テキストの

下、担当する先生は違っても同じ内容の授業を行うクラスが複数用意されています。科目の種類がわずか30種類（ただし、1Fと3Dは2科目に分かれているので、科目数は32科目）、しかも皆さんが選択できる余地はかなり限られているので、興味のない授業でも、卒業するためにはしかたなく履修しなければならない場合があるかもしれません。どうやら、「偏食や食わず嫌いはいけません。大学が必要と考えるものは、口をこじ開けてでも食べてもらいます」ということのようなので、科目やクラスで選り好みをするのは、時間のムダです。

③ GS 言語科目

GS 言語科目は、現在のところ「世界共通語」の位置を占めているといわれる英語を学ぶ各1単位の授業科目です¹²⁾。「EAP (*English for Academic Purposes* の略)」と「TOEIC 準備」の2種類がそれぞれI~IVまであり、皆さんが卒業するには、この全て、つまり、

8 単位を修得することが必要！

ということになります。

④ 初習言語科目

初習言語科目（いわゆる「第二外国語」。多くの人にとっては英語以外の言語）¹³⁾は、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、ギリシア語、ラテン語、スペイン語の8つそれぞれについて、入門から順に、A・B・Cが用意されており、すべて1単位科目です。皆さんが卒業するためには、

同一言語で、8 単位を修得することが必要！

ということになります。

法学類では、英語だけでなく初習言語も重要です。法学類の専門教育科目の中心となっている**法解釈学**は、わが国で現に通用している、日本語で書かれた法令の意味内容を明らかにし、それを使って、日本の社会に起こっている具体的事件を解決する技法を学ぶものですので、一見すると外国語との関係は薄いように見えるかもしれません。じっさい、専門教育科目の授業の中で、外国語を履修していなければ履修できないというものはあ

¹²⁾ いわゆる「グローバル化」の流れの中、大学でも授業科目の英語化といったことが推進されていますが、わが国で英語が公用語化され、法令が英語で書かれ、裁判所の弁論や国会の審議が英語で行われるといったことでもない限り、法学・政治学の授業を英語化することは、無意味を通り越して有害です。これに対し、例えば日本の法や政治のことを海外に発信するには、日本語で理解した内容を英語で表現しなければなりません。皆さんが英語力を高める積極的意味はここにあります。

¹³⁾ 留学生は、初習言語科目、GS 言語科目の履修方法が特殊なので、法学類教務係に相談してください。

せんし、他大学の法学部を見ても、英語はともかくとして、初習言語は、履修しなくても卒業できるところが（国公立を問わず）少なくありません。法学類でも、皆さんの先輩の多くは、必修だからやむを得ず履修するという感じで外国語を履修し、必要な単位数をそろえたら、ハイさようなら、あるいは英語の外部試験を受けておくと就職や進学に有利らしいというウワサを聞きつけて、その対策くらいはやる、という感じだったようで、初習言語の履修で身につけたことを専門科目の勉強につなげるところまで漕ぎ着けた人は、わずかだったようです。ですが、例えば以下のようなことを考えると、初習言語は実は、皆さんの法学学習の幅を広げ、深みを増すことに大いに役立つことがわかります。せっかく受験勉強を少し離れて外国語に取り組めるんですから、食わず嫌いにならず、積極的にいろいろと挑戦するとよいでしょう。

① 日本法を基盤に遡って理解する

高等学校までの歴史の授業で学んでいるように、わが国の法体系は、わが国在来のものではなく、明治維新の後に、西洋の法制度を取り入れて整備されたもので、その際、多くの法律用語が作られました。法律用語あるいは法学独特の言い回しは、何となく、普段目にしない「よそ行き」のものに見え、しばしば一般人にとって「わかりにくい」と言われますが、このような由来も原因のひとつです¹⁴⁾。現在のわが国の法学はすべて、西洋諸国の言語で書かれた法（とりわけ、ドイツおよびフランスの法）や文献を翻訳することから始まったといってもよいでしょう。そうだとすると、現在の日本で使われている法制度を根本から理解しようとする、それがどこから来たのか、もともとあったところでは、どのように機能しているのか、といったことをも調べることが必要になってきます。このように勉強を深める場合、外国語（この意味では特に、ドイツ語またはフランス語）を知っていることは有力な武器になります。

② 日本の法と政治を相対的な視点で理解する

国は違っても、社会の中では、似たような問題が起こります。それを外国の法あるいは政治がどのように解決しているのかを調べることは、日本における問題の解決法が唯一絶対のものではないことを教えてくれるとともに、よりよい解決法を見つける手がかりになるかもしれません。また、いくら英語が「世界共通語」の役割を果たしているからといって、モノの考え方や行動様式までもが、英語を母語とする人たちのものが唯一の正解となるのではなく、英語以外の言語を母語とする人たちが、自分たちの母語を用いて考えていることや、その行動様式も、同じくらい尊重に値するものです。このように、外国語に接することを通じて、人々のものの考え方や発想、行動様式には多様性があることを理解し、問題解決のための手筋を増やすことができます。

¹⁴⁾ そのため、これから法学を専門に学ぶ皆さんにとっても、法学の学習それ自体が、あたかも未知の言語を学ぶような感覚かもしれません。しかしそれでもなお、明治以来の先人達の血のにじむような努力の成果として、曲がりなりにも法が日本語で記述され、日本語で運用されていることの意味は強調されるべきです。

③ 国境を越えた法・政治問題を分析するツールとして

現代では、国境を越えた取引活動や国際結婚、国家間の関係など、法・政治問題が国境を越えて発生することが当たり前の時代になっています。このような問題を分析し、あるべき解決策を提示するには、あるいは将来、このような国境を越えた活動に実際に携わろうと考えるならば、これまた外国語を知っていることが不可欠になります。

なお、国際基幹教育院外国語教育部門が作成している『初習言語ガイドブック』には、皆さんがはじめて目にすることになる各初習言語の特色とあらまし、初習言語の効果的な履修のためのアドバイスや、言語科目と専門教育科目との関係などが大変わかりやすく説明されていますから、初習言語を選ぶ際にぜひ参照して下さい。

近年の初習言語選択状況（法学類1年生）

| （年度） | ドイツ語 | フランス語 | 中国語 | ロシア語 | 朝鮮語 | ギリシア語 | ラテン語 | スペイン語 |
|------|------|-------|-----|------|-----|-------|------|-------|
| 2017 | 75 | 19 | 53 | 5 | 12 | 0 | 0 | 10 |
| 2018 | 62 | 27 | 53 | 2 | 11 | 0 | 0 | 8 |
| 2019 | 65 | 24 | 49 | 0 | 19 | 0 | 1 | 5 |

⑤ 自由履修科目

これまで①から④までに紹介した各授業科目の、卒業するために最低限修得すべき単位数を全部足すと、

$$\begin{array}{ccccccc} \text{(導入科目)} & \text{(GS科目)} & \text{(GS言語科目)} & \text{(初習言語科目)} & & & \\ (4 \text{ 単位}) & + (15 \text{ 単位}) & + (8 \text{ 単位}) & + (8 \text{ 単位}) & = & (35 \text{ 単位}) & \end{array}$$

となります。共通教育科目全体で修得すべき単位数は、38単位以上なので、差し引き3単位分足りませんが、この3単位は、8単位を超えて修得した初習言語科目の単位、15単位を超えて修得したGS科目の単位¹⁵⁾、あるいは①から④までのどの区分にも属さない共通教育科目を履修して修得した単位が自動的に充当されます。

(3) 専門教育科目とその履修要件

別表第1の専門教育科目の履修要件のうち、ここでは「専門基礎科目4単位以上を含む専門科目86単位以上」の部分の基本的な説明をします。ここでも、専門科目ならとにかく86単位以上かき集めればよいというのではなく、法学類細則でその中身が決まっています。

¹⁵⁾ 計算の際は、②に掲げた表に記載されている留意点をよく読んでください。

法学類細則4条3項 学域規程別表第4のうち、本学類の提供する授業科目の履修方法は、本細則別表第2及び別表第3に定めるところにより、修得すべき単位数の細目は、所属コースごとに次のとおりとする。

| コース | 必修 | 選択必修 | 選択 | 合計 |
|----------|-----|------|--------|--------|
| 公共法政策コース | 4単位 | 62単位 | 20単位以上 | 86単位以上 |
| 企業関係法コース | 4単位 | 56単位 | 26単位以上 | 86単位以上 |
| 総合法学コース | 4単位 | 42単位 | 40単位以上 | 86単位以上 |

（「専門教育科目」には、この他に学域GS科目と学域GS言語科目が含まれることに注意！）

また何やらややこしくなってきましたが、ここではさしあたり、「専門基礎科目4単位以上を含む専門科目86単位以上」の中身を決めているのが、法学類細則の「別表第2」¹⁶⁾で、それを文字にすると4条3項のようになる、と考えてください。別表第2は分量がかなり多いので、皆さんにはちょっと面倒をかけますが、これから先しばらくは巻末の法学類細則または別冊付録に載っている別表第2を開きながら読んでください。なお、別表第2のことを「カリキュラム表」といいます。以下、カリキュラム表の読み方のポイントを説明しますが、この表の読み方をマスターすることは、法学類での勉強を進める上で、最も重要なことのひとつですから、注意してください。

さっきの細則4条3項を見ると、法学類には、公共法政策コース、企業関係法コース、総合法学コースという3つのコースがあることがわかります¹⁷⁾。カリキュラム表では、3つのコースが、右から2番目の「卒業に必要な単位数」という欄に並んでおり、各コースを下の方に眺めて行くと、○以上、あるいは「任意選択」という欄が並んでいるでしょう。他方、カリキュラム表のいちばん左には、「科目区分」という欄があり、左から2番めには「授業科目」とあって、法学類が提供する専門科目がグルーピングされています。これを突き合わせると、「それぞれの科目区分にグルーピングされている授業科目の中から、少なくともどれだけの単位数を修得しなければならないか」が、コース別に表示されていることが分かります。そして法学類では、3年生になるときに、どのコースに進むかを選択することになりますので¹⁸⁾、1・2年生のみなさんは当面、どのコースに進んでも共通して履修することが要求される授業科目が、履修のメインになるでしょう。

「授業科目」の次の「単位数」は、「その授業科目が何単位の授業科目か」を表します¹⁹⁾。

¹⁶⁾ 別表第3は教員免許取得にのみ関係する科目です。

¹⁷⁾ 編入学生は、「総合法学Bコース」に所属し、独自の履修要件が設定されています（法学類細則8条）。

¹⁸⁾ コース選択のヒントは、それぞれのコースのコンセプトなどとともに、次の第2章で説明します。

¹⁹⁾ ここに表示されている単位数よりも細分化して、例えば2単位の授業科目の単位認定にあたって、2単位のうち1単位だけを部分的に認定する、というようなことは絶対にありませんから、くれぐれも注意してください。ありえません。

その次の「履修可能年次」は、「その授業科目は何年生から履修できるか」を表し、例えば「1年以上」とあれば、1年生から履修することができます²⁰⁾。さらに次の「開講学期」は、「その授業科目はどのクォーターに開講されるか」を表します²¹⁾。したがって、例えば、表の最初の「法学概論」は、単位数の欄に「2」、履修可能年次の欄に、「1年以上」、「開講学期」はQ1に●がついています。これは、「法学概論」は、2単位の授業科目で、1年生から履修することができ、第1クォーターに開講されることを表しています²²⁾。

2020年度の「法学概論」は、第2クォーターに開講延期。

ここで、さっきの法学類細則4条3項にも出てきた、「**選択必修**」という用語が、また出てきました。選択と必修のちがいは共通教育科目のところの説明しましたが、「選択必修」って、いったい何でしょうか？ その答えを解くカギは、カリキュラム表の「卒業に必要な単位数」という欄にあります。

とりあえずは例として、科目区分「基本科目 I（公共法政策系）」の欄を見てください。そこには、「憲法（人権）A」から「地方政府論」まで、合計17個の授業科目がグルーピングされているはずです。そして、「卒業に必要な単位数」の欄には、どのコースを見ても、「18以上」と書いてあります。これは、「法学類の学生は、どのコースに所属するとしても、このワクに含まれる17個の授業科目のうちから18単位以上をとらなければならない、そうでない限り、いくら合計で専門科目の単位を86単位以上とっても、卒業することはできない」ことを意味します。「**選択必修**」というのは、このように、「**学生は、いくつかの授業科目をグルーピングしたワクの中から、履修する科目を選ぶことができる、そしてそのワクの中から一定数の単位をとらなければならない**」という決まりのことです。

なお、今の例でこのワクから必修の18単位を超えて単位をとった場合には、その単位は、選択科目の単位として扱われます。

法学類細則第4条

第4項 専門基礎科目及び専門科目の選択必修科目について、選択必修科目の修得すべき単位数を超えて修得した単位は、選択科目の単位として認定する。

²⁰⁾ カリキュラム表を見ても、履修可能年次が「1年以上」になっている専門科目はそんなに多くありませんが、もし皆さんが上の学年に配当されている専門科目がどんなものか体験してみたければ、その授業をやっている教室に潜り込んで聴講することは事実上可能です（「事実上」なので、それで単位がもらえるわけでないのは当然ですが）。高校であれば、隣のクラスの授業に潜り込もうものなら、「ちょっと職員室に来なさい」がオチでしょうが、大学は主体的な勉強をするところである以上、このような熱心な学生のやることをとめる理由がありません。もちろん、他人（ほんらいの受講者、担当の先生）の迷惑になるのであれば、遠慮しなければなりません。

²¹⁾ ただし、表の欄外の（注）1に、開講学期は変更することがある、とあるように、例えば、担当の先生が留学中といった事情で、表とは違うクォーターに開講されることがあります。

²²⁾ なお、これ以降、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター、第4クォーターを、それぞれQ1、Q2、Q3、Q4と略記します。

第1章 大学における履修のための基礎知識（入門編）

さっきの細則4条3項をみれば、必修の単位数は4単位（演習）、選択必修の単位数は、公共法政策コースで62単位、企業関係法コースで56単位、総合法学コースで42単位でしたから、これを足しても、86単位には全然足りません。足りない部分は、選択科目の単位をとって行くこととなります。選択科目は、①今説明した選択必修のワクから必修の単位数を超えて履修した授業科目のほか、②必修にも選択必修のワクにもなっていない授業科目があります。カリキュラム表では、各コース別の「卒業に必要な単位数」の欄に数字が記載されていない授業科目が、これにあたります²³⁾。さらに、③法学類以外の学類で開講される専門科目の単位も、次の条件で、法学類の選択科目の単位と同様に扱われます。

法学類細則第4条

第5項 本学類以外の学類が提供する専門教育科目については、公共法政策コース所属の学生にあつては20単位まで、それ以外の学生にあつては24単位まで、選択科目の単位として認定する。（但書略）

法学・政治学に隣接する専門領域についても、ある程度まとまった知識を身につけたいという人は、この24単位（または20単位）の部分を利用すれば、「人間社会学域」内の他の学類が提供する授業科目を履修することができます²⁴⁾。そのための履修モデルとして、「副専攻」という制度があります（☞ 第2章4.（4）④参照）。

専門教育科目としては、この他に学域GS科目2単位と学域GS言語科目2単位が卒業のために必要な単位となっていますが、これらについては第2章4.（2）②で説明します。

6. 時間割作りと履修登録の注意点

各種の授業科目の概要を理解したところで、実際に時間割を作るための注意点を確認したうえで、時間割を作り、履修登録をしましょう。

（1）学期区分と学年暦、授業期間の確認

高校と同じく、大学の年度は、4月1日に始まって、翌年の3月31日に終わります。そしてこの期間は、次のとおり2学期4クォーターに分けられます。

²³⁾ したがって皆さんは、どのコースを選択しても、法学類の提供する専門科目は、どれでも履修することができます。ただし、「総合法学演習」と「判例研究」だけは、総合法学コースの学生（編入学生含む）のみ履修することができます。

²⁴⁾ なお、理工学域、医薬保健学域の各学類で開講される授業科目については、人間社会学域長の許可を得るための手続が必要になるので（学域規程9条参照）、あらかじめ教務係に相談してください。

| | | | | | |
|----|-------|------------|----|-------|-------------|
| 前期 | Q1/Q2 | 4月1日～9月30日 | 後期 | Q3/Q4 | 10月1日～3月31日 |
|----|-------|------------|----|-------|-------------|

注：各クォーターの期間は学年暦により別に定めます。

もともと、実際にこの期間中ずっと授業が行なわれているわけではなく、休業期間もあります。授業がどの期間に行なわれるかは、**学年暦**というカレンダーを確認してください²⁵⁾。なお、学年暦を見るとすぐに分かると思いますが、大学は授業のある期間でも週休2日制で、土曜日、日曜日、祝日は原則として休みです。1日の授業は原則として、1時限目から5時限目までの間に開講されます。各時限は90分で、その時間帯は次のようになっています²⁶⁾。

| 時 限 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 時間帯 | 8:45 10:15 | 10:30 12:00 | 13:00 14:30 | 14:45 16:15 | 16:30 18:00 |

（2）授業科目の開講時期

授業科目は、一部を除いてクォーター単位で開講します。皆さんは、各クォーターが始まるごとに、そのクォーターに開講される授業科目（Q1, Q3の場合は、それぞれ前期または後期を通して開講される授業科目も含む）の中から履修を希望する授業を選び、その授業を履修する意思を大学に表明する必要があります。

（3）履修登録単位数の上限を理解する

大学生の時間割は、月曜日から金曜日までそれぞれ1限から5限までを自分で書き込んで行くわけですが、高校の時間割のように全部の時間帯を埋めなければならないというものではありません。むしろ、時間割に書き込むことのできる授業科目の数には上限があります。これは、「単位」の中身に、学生の自習の時間が含まれている以上、全部の時間帯を埋めたのでは、自習の時間が十分に確保できなくなるからです。そしてこの上限は、原則として次のように定められています（学域規程別表第5）。

1 クォーター当たり 12 単位まで！

²⁵⁾ 学年暦は、<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/educational/calendar> に掲載されます。

²⁶⁾ 日常会話では例えば、「寝坊して1限に遅れた」とか、「明日の4時限目は休講」とかの言い方をし、「時限」という言い方をするのはまれです。なお、1時限分の授業のことを「1コマ」と言い、逆に時間割を作ったら、1限と3限には授業が入ったが、2限には授業がないことになったような場合には、この2限のことを「空きコマ」などと言っています。

そこで次に、授業科目1つあたりの単位数を見ておきましょう²⁷⁾。

| 共通教育科目 | | 専門教育科目 | |
|----------------------------|-------|-----------------|----------------------------------|
| GS科目2Fの大部分 | 0.5単位 | | |
| 導入科目、大半のGS科目、GS言語科目、初習言語科目 | 1単位 | 学域GS科目、学域GS言語科目 | 1単位 |
| | | 専門基礎科目、専門科目 | 科目ごとに法学類細則別表第2に記載 ²⁸⁾ |

なお、1年次後期以降、直近の学期までの成績によって、履修登録の上限単位数の制限が解除されることがあります（☞ 第2章3.（3）を参照）。

（4）シラバスの熟読と活用

皆さんが自分の時間割を作る作業というのは、大学が配布する時間割表をもとに、何曜日の何限にどの授業を履修するか決め、白紙の時間割表を埋めてゆくことを意味しますが、この作業に入る前に、「シラバス（授業計画）」を熟読しておくことが非常に重要です。高校までは、授業の概要が知りたければ教科書をななめ読みすれば、だいたいそれでよかったです。大学の授業となると、これまで勉強したことのない領域も少なくないだけに、そう簡単にはいきません。そんなときに参考になるのが、「シラバス（授業計画）」です。

「シラバス（授業計画）」は、その授業科目の目標と、それを達成するための授業のやり方、テキスト・参考文献、成績評価の方法、あるいは関連する授業科目やカリキュラム全体におけるその科目の位置づけなどを、各授業科目を担当する先生が説明しています。皆さんが授業科目の概要を把握した上で時間割を作り、さらに卒業までの履修計画を立てる際には、シラバスが不可欠の資料になります。シラバスは、Web上から検索することができます（<https://eduweb.sta.kanazawa-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx>）。~~これに加えて、前期に法学類が1年生を対象に提供する専門科目については、履修ガイドンスの際にシラバスを印刷したものを配布します。~~

シラバスの使い方に決まりはありませんが、ごく一般的な使い方を紹介してみましょう。

① 授業に出席する前に授業科目のあらましや、授業の流れをあらかじめ頭に入れる

²⁷⁾ 学期単位で開講する授業科目については、履修登録の上限単位数をカウントする場合に限り、クォーターごとに按分します。例えば、学期単位で開講する2単位の授業科目を履修する場合、1クォーターあたり1単位分とみなして、クォーターごとに上限数を計算します。

²⁸⁾ クォーター単位で開講する2単位の専門科目は、1週間に2回授業が行われます。

シラバスは授業科目の「広告」のような役割を果たしています。第1回目の授業に出席する前に、どのようなことを勉強するのか、あるいはどのような流れで授業が進んで行くのかを頭に入れておけば、先生の説明も理解しやすくなります。

② 授業の目標を日頃の勉強に役立てる

授業科目を担当する先生は、学生がその授業科目の履修を通じて身につけるべきことから目標として設定し、この目標の達成に向けて授業を進めて行きます。そして、単位認定にあたっても基準になるのは、学生がこの目標をどこまで達成したか、ということになります。そうだとすると、皆さんとしては、授業の目標が何であるかをしっかりと頭に入れ、その達成に向けて日頃から勉強をするという姿勢を持つ必要があります。この意味で、シラバスに書いてある授業の目標は非常に重要なところですよ。

③ コースを選ぶ、あるいは卒業までの履修計画を立てるのに役立てる

専門科目については、カリキュラム上では上の学年に配当されている授業科目のシラバスも見ることができます。1年生のうち、専門科目がそれほど多くないので、ムダではないかと思うかもしれませんが、これは皆さんが将来、コースを選ぶさいに重要な情報のひとつになります。つまり、カリキュラム表を見ると、コースによって選択必修になっている授業科目に違いがありますから、皆さんとしては、カリキュラム表とシラバスを照らし合わせながら、どのコースを選ぶかをよく考えることが重要です。

(5) 履修に関する諸連絡について

大学から皆さんに対する連絡（例えば、通知、呼び出し、休講・補講の案内、定期試験の受験上の注意事項の公示、奨学金・授業料免除の願書提出期限など）は、「**掲示**」が正式な方法であり、補助的にアカンサスポータルからメッセージを送信する方法でも行なわれます。特に、授業開始直前から直後の時期は、履修に関する重要な連絡や講義室の変更などのお知らせが集中することになります。掲示を見なかったり、見落とししたりしたために不利益を受けても皆さん自身の責任と扱われ、救済されないことになりますから、**毎日1度は必ず見るように心がけて下さい**。都合で大学に来ることができない場合でも、友人を通じて掲示の内容を知るように努めて下さい。皆さんに関係する掲示の多くは、**総合教育講義棟学務係周辺と人間社会第1講義棟1階**にあります²⁹⁾。**遠隔授業の実施期間中は、アカンサスポータルからのメッセージ、大学からの電子メール、学類Webをこまめに確認！**

(6) 時間割作りと履修登録

以上の準備ができたなら、いよいよこれから、1年Q1の時間割を作ってみましょう。皆さんは、このハンドブックや共通教育科目、専門科目の時間割表³⁰⁾等、履修ガイドの際

²⁹⁾ 掲示板は、対象となる情報ごと複数設置されているので、早めに場所を覚えてください。

³⁰⁾ 専門科目の時間割表は、<https://jinsha-gakusei.w3.kanazawa-u.ac.jp/cm/timetable/>に掲載されます。

に配られた資料と、白紙の時間割表か手帳を手元に置いて下さい³¹⁾。

① **Step. 1 導入科目、GS 言語科目の開講時間帯等を確認する。**

これらの授業科目は、全員が必ず履修しなければならない、なおかつ履修すべき時間帯、クラスもあらかじめ決められています。したがって皆さんは、共通教育科目の時間割表やその他の配付物をもとに、自分の所属するクラスと開講時間帯、教室、担当教員等を確認する必要があります³²⁾。

導入科目の開講時間帯

| | | |
|--|------|------|
| 月2 (大学・社会生活論), 水4 (データサイエンス基礎), 木1 (地域概論), 水3 or 金5 (初學者ゼミ I) | 4 単位 | 2 単位 |
|--|------|------|

「初學者ゼミ I」は、担当の先生が誰かによって、開講時間帯が違いますから、皆さんは履修ガイダンスの際に、自分がどの先生のクラスに割振られているかを確認してください。
(地域概論は Q2, 初學者ゼミ I は Q3 に開講延期。初學者ゼミ I のクラス分けは後日通知)

「GS 言語科目」は、次のとおり開講時間帯が指定されています(ついでなので、後期(Q3, Q4)の開講時間帯も掲げておきます)。各時間帯には複数のクラスが開講されますが、皆さんが履修するクラスは指定されています。履修ガイダンス時に配布される、**郵送される資料に入っている**履修すべき時間帯と科目の種類等の一覧表から、自分の手帳や白紙の時間割表に転記してください。

| | | | |
|----|----|-----------------------------------|------|
| 前期 | Q1 | 月3 (EAP), 木2 (EAP), 火1 (TOEIC 準備) | 3 単位 |
| | Q2 | 火1 (TOEIC 準備) | 1 単位 |
| 後期 | Q3 | 火1 (TOEIC 準備), 木2 (EAP) | 2 単位 |
| | Q4 | 火1 (TOEIC 準備), 木2 (EAP) | 2 単位 |

② **Step. 2 専門科目、初習言語科目、GS 科目を選択する**

これらの科目は、たくさんある授業科目の中から、皆さんがどの授業科目を履修するかを選択できるので、全員が同じ科目を履修するとは限りません。皆さんは履修する授業科目を自分で決め、大学に履修の意思を表明しなければいけません。この手続を、「履修登録」といいます³³⁾。大学の方から見れば、皆さんがきちんと手続をしてはじめて、「なるほど、

³¹⁾ 入学前に他の大学等ですでに修得していた単位がある場合、申請により金沢大学の単位として認定する制度があります。希望する人は、至急、基幹教育学務係に相談して下さい。

³²⁾ 入学前に英語の外部試験等を受験し、そのスコアが一定以上の場合、申請により GS 言語科目の単位認定を S の成績評価で受けることができます。心当たりのある人は、至急、基幹教育学務係に相談してください。

³³⁾ 履修登録は、集中講義等を含む当該クォーター(学期)に開講される授業科目で、履修を希望するものすべてについて行う必要があります。履修登録期間が終了し、登録内容の確認・訂正期間がすぎた後は、真にやむを得ない事情がない限り、登録を追加することができなくなりますから、十分に注意して

誰々さんは何々の授業科目を履修するつもりなのか」と分かりますので、皆さんが履修登録のやり方を間違えてきちんと手続をしないと、単位が認定できません。このように、履修登録でミスをすると致命的な結果をまねくことになりますから、十分に注意する必要があります。

履修規程第8条

第1項 学生は、履修を希望する授業科目について、別に定める履修登録期間に履修登録手続により学域長又は国際基幹教育院長に願い出、許可を受けなければならない。

第2項 学生は、履修登録期間後に履修を希望する授業科目の確認を行い、変更する場合は確認・変更期間内に手続を行わなければならない。

第3項 履修登録手続をしていない授業科目については、履修することができない。履修登録手続に不備又は誤りがあった場合も同様とする。

以下では、授業科目を選ぶ際に注意すべきことの要点を説明し、履修登録の具体的な手順は、次の Step. 3 で説明します。

「1年生から履修することのできる専門科目」は、法学類で専門科目を履修して行く上で基本となるとともに、所属コースの選択をするにあたって、皆さんが自分の向き不向きを考える上での基礎になります。しかも、カリキュラム表を見ると、1年前期に開講される専門科目はすべて、選択必修のワクの中に含まれています。このような授業科目は、2年生以降の勉強の前提になるという意味でも、卒業要件を満たすという意味でも、とても重要ですから³⁴⁾、できるだけ早くに単位をとってしまうことを強く勧めます。開講時間帯は専門科目の時間割表に出ていますが、ここにも挙げておきますので、みなさんは自分の手帳や白紙の時間割に転記してください³⁵⁾。

1年 Q1に開講される専門教育科目

「**法学概論**」(水5・木5) 2単位×1科目=2単位

2020年度は、「法学概論」の開講時期をQ2に延期するため、Q1に1年生に開講される専門教育科目はありません。

初習言語科目については、①どの言語を学ぶか、②その言語の中で複数開講されるクラスのうち、どれを選択するか、の2点を検討します。

ください。なお、集中講義は、例えば専任教員が留学等で講義を担当できない場合に、通常の授業期間外にまとめて開講され、専門科目の時間割表では欄外にまとめて掲載されています。

³⁴⁾ 学年が進むと専門科目の中でも、応用的・発展的な科目が増えてきますが、その前提となる科目が身につけていないと対応できないことがあります。また、専門科目どうしで開講時間帯が重複して、ほかの専門科目を履修できないという問題が起こります。

³⁵⁾ 履修登録をする際には、授業科目ごとに振られている時間割番号を入力しますので、時間割表か Web シラバスで必ず確認してください。

まず、初習言語科目のうち、履修希望者が比較的たくさんいる、ドイツ語、フランス語、中国語（「ドイツ語 A」、「フランス語 A」、「中国語 A」）については、学類ごとに開講時間帯が指定されています。

**法学類 1 年生対象の「ドイツ語 A」「フランス語 A」「中国語 A」は・・・、
火曜日の 2 限（一部のフランス語は 3 限）と木曜日の 3 限に開講！**

火曜日 2 限（3 限）と木曜日 3 限の授業とはワンセットで、同じクラスで行なわれます。そして、この時間帯・クラスは Q2 以降も同じです。この時間帯には、法学類生向けに同じ言語の授業が複数開講されますから、皆さんは、クラスのセット（A1-1 と A2-1）を選んでください。履修希望者が適正人数を超えると、後でコンピューターによる抽選が行われますので、抽選にもれた場合に備えて、第 2 希望・第 3 希望も検討しておいて下さい。

ドイツ語、フランス語、中国語を選択する場合のポイント

- ・ 火 2（火 3）3 と木 3 に、法学類生向けに開講されるその言語の授業のクラス（セット開講のペア）を選択する。
- ・ 抽選にもれた場合に備えて、第 2 希望・第 3 希望も検討しておく。

次に、**ドイツ語、フランス語、中国語以外の言語については、開講時間帯の指定はありません**ので、共通教育科目の時間割表とシラバスを見ながら、他の授業を入れる予定のない時間帯に開講されている授業を探し、選択してください。この場合も、履修希望者が適正人数を超えると、後でコンピューターによる抽選が行われますので、抽選にもれた場合に備えて、第 2 希望・第 3 希望のクラスも検討しておいて下さい³⁶⁾。

1 単位×2 科目＝**2 単位**

GS 科目は、国際基幹教育院の Web サイト上の『共通教育科目授業時間割表』に掲載されている、「GS 科目開講時間割」に、各曜日・時限に開講される科目が一覧となっています。皆さんは、各曜日・時限に開講される GS 科目の中から、自分が Q1 に履修する GS 科目を選んでください³⁷⁾。なお、これまでに説明してきた各授業科目と重なっている時間帯もありますが、その場合はこれまでに説明してきた各授業科目の登録を優先することをお

³⁶⁾ なお、スペイン語は、ドイツ語、フランス語、中国語と同じく、A1 と A2 がセット開講されます。その他の初習言語は、セット開講ではありませんので、A1 と A2 は個別に時間帯を選択してください。

³⁷⁾ ひとつだけ実践的なアドバイスをすると、1 限から 5 限までぶっ通しで、ちょうど「ビンゴ！」のような時間割を作ることは、（不可能ではありませんが）あまりおススメしません。例えば、皆さんがもし、木曜日の 4 限に GS 科目を履修するとすれば、これまでに時間割表に記入されたものを振り返ると、1 限：地域概論、2 限：GS 言語科目（EAP）、3 限：初習言語（独仏中）、5 限：専門科目（法学概論）となります。高校の時間割を見慣れている皆さんは、そんなの大したことない、と思うかもしれませんが、大学の授業は 1 コマが高校の 2 倍近い 90 分であることも考えると、ムリはしない方がいいと思います。

勧めします³⁸⁾。

GS 科目の中には、履修対象者が限定されている授業もあります。皆さんは、『共通教育科目授業時間割表』の情報をもとに、自分が履修対象者に含まれる GS 科目を選ぶ必要があります³⁹⁾。また、履修希望者が適正人数を超えた場合、後でコンピューターによる抽選が行われるので、抽選にもれた場合に備えて、他の授業科目と重ならない曜日・時限に開講される GS 科目を、希望順にできるだけ多く登録しておくことになります。なお、同じ名前の GS 科目が複数開講されている場合でも、時間割番号が違っている限り⁴⁰⁾、複数登録してもかまいません⁴¹⁾。もっとも、履修登録単位数の上限が 12 単位であることとの関係で、次の計算のとおり、Q1 に実際に履修できる GS 科目は、~~11 単位分~~ **5 単位分** だけです。

| |
|---|
| 導入科目 4 単位 2 単位 + GS 言語科目 3 単位 = 7 単位 5 単位 |
| + |
| 専門科目 2 単位 + 初習言語科目 2 単位 (1 単位 × 2) = 4 単位 2 単位 |
| ↓ |
| 合計 11 単位 7 単位 あと 1 単位分しか履修できない！5 単位分履修可能！ |

③ Step. 3 Web 上で履修登録を行う **金沢大学 ID は郵送されます。**

履修登録は、所定の期限までに Web 上から行います。スマホ、PC 等のインターネットにアクセスできる機器と履修ガイダンス時に配布される金沢大学 ID とパスワードを使い、アカンサスポータルにログインし (<https://acanthus.cis.kanazawa-u.ac.jp/Portal/>)、リンクメニューのところにある「学務情報サービス」をクリックすると登録用の画面にアクセスできます⁴²⁾。履修登録のメニューにアクセスした後の操作方法の詳細は、履修ガイダンス時に配布される『学生便覧』の「授業科目の履修」という項目に記載されています。

³⁸⁾ 例えば、「初学者ゼミ I」が水曜日の 3 限に開講されるクラスに割り振られた場合は、この時間帯に GS 科目を履修することはできません。また、セット開講となる初習言語科目の登録をする時間帯に、他の授業科目の履修登録がされていると、初習言語科目の登録がエラーになります。

³⁹⁾ 例えば、体育関係の科目では、「女子限定」「男子限定」という性別による限定があります。また、「2 年生以上限定」「〇〇学類限定」のような学年による限定もあります。逆に、「法学類生を除く」という除外の書き方もあります。さらに、限定や除外よりは緩やかに、例えば「1 年生優先」とあれば、1 年生に履修上の優先権があり、空きがあれば、2 年生以上も履修できる、という意味になります。

⁴⁰⁾ 時間割番号が同じ授業科目を複数回登録することはできません。抽選で当たる確率が上がることもなく、エラーになります。

⁴¹⁾ **GS 科目に関する限り**、授業科目名の字面からイメージされる内容や、担当の先生についての前年度までの先輩からのウワサなどを頼って、**履修する科目やクラスを選び好みするのに時間をかけるのは率直に言ってムダです**。そんなものは全部無視して、各授業科目についている符号と履修条件を照らし合わせつつ、必要な単位をさっさと揃えてしまえ、くらいの感覚で取り組めば十分です。

⁴²⁾ 1 年生の Q1 に限り、金沢大学の Web サイト（在学生のページ）から履修登録の画面にアクセスできます。なお、**金沢大学 ID とパスワードを他人に知られると、学内のネットワーク上でいわゆる「なりすまし」が簡単にできてしまい、重大な不利益を被る危険がありますから、取扱いにはくれぐれも注意して下さい。**

④ Step. 4 抽選結果を確認し、必要に応じて補正登録をする

履修登録期間が終わると、コンピューターにより GS 科目・初習言語科目の抽選が行われるとともに、履修登録単位数の上限を超える登録は自動的に抹消されます。皆さんは速やかに、抽選の結果、自分が何曜日の何限のどの科目を履修することができるのかを、Web 上から確認してください。その際、Q1 に履修する予定の授業科目の、曜日・時限・教室もあわせて確認し、手帳あるいは白紙の時間割表に控えるようにしてください。内容に間違いがなく、加除訂正の必要がなければ、履修登録はそのまま確定しますので、履修時間割表を PDF ファイルでダウンロードして保管するとともに、授業に出席してください。

抽選結果を確認した結果、事前に登録した全部の GS 科目・初習言語科目の抽選に漏れるようなことも起こりえます。こういう場合は、コンピューターに八つ当たりしたくなるかもしれませんが、大人げないですから、運が悪かったと諦めて、慌てず騒がず定員に余裕のある科目を探して、登録を追加することを検討しましょう。また、あまりおススメはできませんが、抽選に当選して履修が保障された科目の権利をあえて放棄し、定員に余裕のある別の科目に登録替えをすることもできます。このようにコンピューターによる抽選の結果を見て、最初にした履修登録を修正すること（登録の抹消、追加）を、補正登録といい、履修登録補正期間内に、Web 上から行うことができます。補正登録をしたときは、その後で履修時間割表を PDF ファイルでダウンロードして保管してください。なお、補正登録による履修の受け付けは先着順、つまり早い者勝ちとなります。

⑤ Step. 5 授業開始後にすること

授業は、前期（Q1）の授業期間の初日から直ちに始まりますので、皆さんは抽選結果の確認の際に作った控えをもとに、授業の行われる教室を確認して、出席**または遠隔授業の場合、それぞれの授業で指示された方法により参加**してください。

以上で Q1 の時間割が完成します。完成した時間割は、だいたい 6 月初め**半ば**くらいまでの間、大学における皆さんの 1 週間の原則的なスケジュールになるだけでなく、皆さんがどの授業科目を履修している（した）かを把握するツールにもなりますから、必ず保存しておきましょう。履修を許可されていない授業科目は、絶対に単位認定の対象にはなりません。また、いったん履修を許可された授業科目でも、履修手続上のルールを守っていないことが後日判明したときは、予告なく履修許可が取消されます。この場合も、救済措置は一切ありませんので、十分注意して下さい。

⑥ Q2 の時間割作りと履修登録について

Q2 に新たに開講される授業科目については、Q2 の授業開始前の所定の時期に、履修登録をする必要があります。GS 言語科目およびセット開講となっている初習言語科目（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）、**Q2 に開講時期が変更された導入科目「地域概論」**

は、機械的に登録されていますから、皆さんは、以上の授業科目の開講時間帯等を確認した上で、新たに開講されるGS科目と専門教育科目（政治学A・BとQ2に開講時期が変更された「法学概論」）⁴³⁾の登録をすればOKです。その際、「初学者ゼミI」に引き続いて開講される必修のGS科目「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミII）」を含むことに特に注意してください（「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミII）」はQ4に開講延期）。そして、Q2の履修登録単位数の上限を計算すると、次のようになります。

| |
|--|
| 初学者ゼミII 1 単位 地域概論 1 単位 + 専門科目（政治学A・B、 法学概論 ）（1 単位×2+2 単位） 2 単位 4 単位 = 3 単位 5 単位 |
| + |
| GS 言語科目 1 単位 + 初習言語科目 2 単位 = 3 単位（機械的に登録） |
| ↓ |
| 以上の合計 6 単位 8 単位 。ゆえに、GS科目はあと 6 単位分 4 単位分 履修可能！ |

したがって、皆さんはQ2に新たに~~6 単位分~~ 4 単位分のGS科目を履修登録できることになります。皆さんは、共通教育科目の授業時間割表を見て、各曜日・時限に開講されるGS科目のラインナップを確認するとともに、GS科目の単位修得要件（☞10頁の表を参照）を見ながら、自分がQ2に履修するGS科目を選んでください。そして、抽選が行われる場合に備えて、GS科目を希望順にできるだけ多く登録してください。登録されたGS科目の抽選とその結果の確認、補正登録と訂正登録は、Q1の場合と同様です。なお、後日、初学者ゼミIの合同授業として、~~Q2の履修についての説明会を行いますので、必ず出席して下さい。~~

履修登録のポイント

- ①履修登録は、クォーターごとに年に4回、授業開始前に行う⁴⁴⁾。
- ②GS科目は、他の授業科目と重ならない曜日・時限に開講されるものを、希望順にできる限りたくさん登録し、抽選が行われる場合に備える。
- ③初習言語科目は、履修する言語を決め、希望するクラスを第3希望くらいまで登録し、抽選が行われる場合に備える。

⁴³⁾ 「政治学A」「政治学B」は、他学類が同じ名前の授業科目を同じ時間帯に提供しているため、検索すると時間割番号が複数ヒットすることがありますが、必ず法学類生対象のものを登録してください。他学類生対象のものを登録すると、他学類の提供する授業科目を他学類生として履修登録したことになるため、単位が認定されても法学類の提供する「政治学A」「政治学B」の単位を修得したことにならず、別表第2の専門基礎科目の選択必修単位を充足させる上で、重大な支障をきたす恐れがあります。このように、同じ科目名でも時間割番号が対象学生の所属によって異なる科目を登録する場合には、自分が対象となっている時間割番号を正しく登録するよう、特に注意する必要があります。

⁴⁴⁾ ただし、学期単位、つまりQ1・Q2あるいはQ3・Q4の2クォーターを通して開講する科目については、Q1あるいはQ3の履修登録のさいに、法学類の専門科目「卒業論文」のように1年を通して開講される科目については、Q1の履修登録のさいに、一緒に履修登録をすることを忘れないでください。

- ④GS科目・初習言語科目の抽選結果を必ず確認し、適切な授業科目が登録されているかを慎重に見定める。場合によっては、補正登録を検討する。
- ⑤補正登録後にも内容を必ず確認する。

7. 履修についての相談窓口

以上、授業の履修についての基礎知識を見てきましたが、これを読んでもなお分からない、あるいは判断に迷うことがあるかも知れません。このような場合、自分だけの判断では、ミスをするとなり返しのつかないことが少なくありませんから、必ず総合教育講義棟の**学務係**または人間社会第2講義棟の**教務係**に相談にきて下さい。総合教育講義棟学務係前には、「**なんでも相談室**」が設置されており、学期はじめには履修相談にも対応しています。

~~履修ガイダンスおよび法学類オリエンテーションの終了後には、「法学類学生相談室」が、履修相談に対応します（自由参加）。法学類学生相談室では、アカンサスポータル上のLMSに、相談受付のための掲示板を設置しています。金沢大学IDとパスワードで、アカンサスポータルにログイン後、>「**教学**」のところにある「LMSコース(Web Class)」を選択し、「**学生支援**」の「**法学類**」より「**法学類学生相談室**」を選択で利用できます。法学類学生相談室の相談員は、法学類の学生ですので、気軽に先輩の話を聞くこともできるでしょう。詳細は、履修ガイダンスの際にお知らせします。~~

初学者ゼミの担当の先生は、皆さんの「**アドバイス教員**」になり、履修についても相談することができます。

なお、法学類Webサイト (<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp>) にも、履修や学生生活に役立つ情報が載っていますから、随時チェックして下さい。